

ヒューマン・ケア科学専攻

Doctoral Program in Human Care Science

博士(教育学)

■ Doctor of Philosophy in Education

博士(心理学)

■ Doctor of Philosophy in Psychology

博士(ヒューマン・ケア科学)

■ Doctor of Philosophy in Human Care Science

博士(体育科学)

■ Doctor of Philosophy in Health and Sport Sciences

博士(公衆衛生学)

■ Doctor of Philosophy in Public Health

人材養成目的

人間を支援するためのヒューマン・ケア科学について、教育学・心理学・医学・保健学・福祉学・看護学・公衆衛生学等の各専門領域の連携と学問の融合の視点から理解し、総合的・多面的にヒューマン・ケアを研究し創造的に発展させる能力と実践的に応用するための技術を兼ね備えた大学教員、研究者および高度専門職業人の育成を目的とします。

求める人材

ヒューマン・ケアの理念と実践に対する高い関心があり、現代社会における課題解決に必要な高度な専門知識と技術を修得する能力を有し、将来、ヒューマン・ケア科学を創造的に発展させ国内外において社会貢献する資質をもった人材を求めます。

ファカルティ・ディベロップメント

FD研修会において、教育課程の方針、学位審査基準

修了者の進路

教育機関

■大学…筑波大学、筑波技術大学、徳島大学、富山大学、三重大学、兵庫教育大学、金沢大学、北海道教育大学、茨城県立医療大学、九州歯科大学、埼玉県立大学、福島県立医科大学、名城大学、立正大学、常葉学園大学、聖徳大学、茨城キリスト教大学、ハルビン師範大学、バングラディッシュ大学、明治薬科大学、人間総合科学大学 等

■短大…関東短期大学、郡山女子大学短期大学部

研究機関

国立感染症研究所、国立環境研究所、国立成育医療センター、国立精神・神経医療研究センター

行政機関

横浜市、小山市、厚生労働省

民間企業

製薬企業、医療コンサルタント企業、出版企業

(参考論文の基準)等についての専攻内担当者及び学内外の専門家による討論を進展させ、共通理解を深め教育を行っています。

特筆すべき事項

■理科系学問と人文系学問が融合する学際的な専攻は、国内外でも極めて貴重な存在です。

■医学系専攻との協働による博士(医学)をも併せて修得できるダブルメジャー制度があり、これは全国に先駆けて実施しています。また、デュアルディグリープログラムにおいて修士(公衆衛生学)を併せて修了できる制度もあります。

■ヒューマン・ケア科学の教育課程の学際的一貫性の重要性を鑑みて、人間総合科学研究科修士課程フロンティア医科学専攻内のヒューマン・ケア科学コースとの連携を強化しています。

博士(教育学)

Doctor of Philosophy in Education

学位授与の方針

博士(教育学)の学位を授与するにあたり、以下の方針を掲げています。

学際的・複合的な学問領域としてのヒューマン・ケア科学において、人間の教育、とりわけ人々の共生のための教育の実現に関わる独創的で優れた研究テーマを設定し、博士の学位に相応しい研究成果を有し、論理的、科学的、系統的に研究を進め、博士論文としての体裁が整っていること。また、研究成果が教育の現代的課題の理解と解決に貢献することが期待されること。さらに、教師、臨床心理士、社会調査士、社会福祉士、養護教諭、保育士、保健師、看護師などの場合には、教育に関わる支援を行う高度な専門的技術力を練磨し、共生社会の実現に資する実践能力を有すると認められること。

大学院学則に規定する課程の目的を充足した上で、次の能力を有することがヒューマン・ケア科学専攻内規に示した審査会において認定されること。

- 共生教育の理念に基づく社会貢献性の高い成果を発信する明確な意思と能力及び教育能力
- 教育学の各専門領域における課題を理解し、課題解決に向けて関係学術領域と連携を図る能力
- 研究者、教育者、または高度専門職業人としての研究能力、教育能力、実践能力と高い倫理観
- 研究チームや組織の一員としての役割を明確に認識し、他職種や他研究領域の研究者、関係者と協働する能力と後進の指導力
- 自身の研究内容を他の研究領域の者にも適切に説明できるプレゼンテーション能力と適切な質疑応答ができるコミュニケーション能力

教育課程編成・実施の方針

■必修科目としてヒューマン・ケア科学基礎論、ヒューマン・ケア科学方法論がそれぞれ3単位、計6単位が設定され、ヒューマン・ケアに関連する専門領域の学問的基礎、理論、概念、課題、さらにそれらの課題解決のための専門領域のアプローチ・方法論に関する基本的な知識を理解し、ヒューマン・ケア科学の基礎を修得します。またこれにより学際的な研究交流を可能にするコミュニケーション能力をも習得します。

■これらの学修により、幼児、児童生徒、大人、高齢者、障害を有する人々、外国人児童生徒などあらゆる人々の教育と共生におけるケアと現代的課題解決、支援のための研究と教育のための基礎・素養、学際的アプローチを可能にします。

■専門科目として6単位以上が設定されています。演習においては、教育学を構成する複数の関連する学問領域を理解し、人間の教育と支援の前提となる全人的理解、援助方法の策定と介入および社会制度・政策論をクリティークするまでの一連の研究過程について、問題解決に必要な高度で専門的な理論と実践方法を修得し、創造性及び自己推進力、研究能力、教育能力を習得します。特別研究においては、研究に関わる理論・方法論の検討、データ解析を進め、学位論文を作成できる高度な研究能力を獲得します。

■大学院共通科目については、研究者、大学教員、高度専門職業人としての倫理観や幅広い素養を習得する科目として履修を強く勧めています。

達成度評価

■指導教員のみならず複数の副指導教員での教育体制を確保し、丁寧で質の高い指導を計画的に行います。

■博士(教育学)では、共生やケア、支援の理念に基づく社会貢献性の高い成果を発信する明確な意思やその能力及び教育能力や、教育や共生教育に関連する専門領域における課題の理解及び課題解決に向けて関係学術領域と連携を図ることができる能力及び教育能力、研究能力等の達成状況を確認します。

■履修科目やその単位数、学位論文の進捗状況、障害となっている事項、投稿論文の進捗状況等を確認し、その達成状況を教員と学生が共有するとともに、これらに対して教員が適切な指導を行います。またこれらを通じて、コミュニケーション能力、研究倫理観、学際的視点の深度等も確認します。

■3月ごとに学修指導を実施します。これにより学生は、研究の進捗状況や今後実施すべき内容等について指導教員及び副指導教員と十分な意思疎通を図り、研究を計画的・段階的に進めることが可能となります。

学位授与の体制など

■3年間での課程修了(学位授与)をめざし、標準学修課程フローチャートにより計画的・継続的に複数の教員から指導を受ける体制を整えています。学生及び教員には、表1に示すように標準学修課程について専攻内規集(冊子)を配布し、学生への周知徹底を図り、学位取得に向けた意識の向上を図っています。

■指導経過は3月ごとに学修指導記録が学生から提出され、専攻教育会議において各学生の研究進捗状況が確認されます。

■学位論文審査会までに、中間審査会と予備審査会があります(必須)。

■中間審査会においては学位論文のテーマと全体計画及び研究内容に関する論理一貫性等が確認されます。その際、他の研究分野の教員から異なる視点での指導がなされます。また異分野の学生からの質問、意見、コメントも寄せられ、学生間での討論、他分野の学生の意見を参考にできるようになっています。

■予備審査会では、学位論文としての質や学術論文の投稿状況について確認がなされます。審査会には他の研究分野の副査も参加します。

■学位論文審査会では予備審査会の主査・副査に加えて、他専攻から副査を追加し、さらに学際的な視点からの審査が実施されます。

学年	スケジュール
1年次	学位論文テーマの決定
	指導教員・副指導教員の決定
	共通科目履修による学際性の涵養
	TA等による指導力・教育力の修得
3月毎の学修指導と指導記録提出	
2年次	中間審査
	研究内容の審査
	発表能力の修得
	他研究への吟味的評価
学会発表の実施・学会誌への投稿	
3月毎の学修指導と指導記録提出	
3年次	学会誌への投稿
	予備論文の提出と予備審査
	学位論文の提出と学位論文審査
	成果発表会にて学位論文のプレゼンテーション

表1 ヒューマン・ケア科学専攻の標準学修課程

博士(心理学)

Doctor of Philosophy in Psychology

学位授与の方針

学位を授与するにあたり以下の方針を掲げています。

ヒューマン・ケア科学の分野として、学際性を重視しながらも、心理学の専門性に立脚した独創的で優れた研究課題を設定し、科学的・系統的に研究を遂行し、論述し、総括する能力および社会貢献性の高い学術論文を公表する能力を有すると認められること。さらに、臨床心理士等、心理臨床的支援を行う高度な専門的技術力を練磨し、ケアリング社会の実現に資する実践能力を有すると認められること。

大学院学則に規定する課程の目的を充足した上で、次の能力を有することがヒューマン・ケア科学専攻内規に示した審査会において認定されること。

- ①ヒューマン・ケアリングの理念に基づく社会貢献性の高い成果を発信する能力
- ②心理学の専門領域における研究者として、独創的で有意義な研究課題を見出し、課題解決に貢献する高い研究能力と高い研究倫理観
- ③臨床心理士など心理臨床的支援を行う高度専門職業人としての実践能力と高い職業倫理観
- ④自身の研究内容を他の研究領域の者にも適切に説明できるプレゼンテーション能力ならびに適切な質疑応答ができるコミュニケーション能力
- ⑤心理学専門の大学教員としての高い教育能力

教育課程編成・実施の方針

ヒューマン・ケアリングの理念に基づく社会貢献性の高い成果を発信する能力①を獲得するために、ヒューマン・ケア科学基礎論Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲおよびヒューマン・ケア科学方法論Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲが必修科目として設けられています。

心理学の専門領域における研究者として、独創的で有意義な研究課題を見出し、課題解決に貢献する高い研究能力と高い研究倫理観②を獲得するためには、発達臨床心理学演習Ⅰ、同Ⅱならびに臨床心理学演習Ⅰ、同Ⅱが設けられています。

博士論文の指導を通じて、②の目的の達成に加え、自身の研究内容を他の研究領域の者にも適切に説明できるプレゼンテーション能力と適切な質疑応答ができるコミュニケーション能力④の獲得のために、発達臨床心理学特別研究および臨床心理学特別研究が設けられています。

臨床心理士など心理臨床的支援を行う高度専門職業人としての実践能力と高い職業倫理観③を獲得するために、発達臨床心理学実習Ⅰ、同Ⅱならびに臨床心理学実習Ⅰ、同Ⅱが設けられています。筑波大学子ども相談室ならびに筑波大学心理相談室において、地域の人々に対して臨床心理学的支援を相談活動として提供し、教員によるスーパービジョン、相談室員全員との討論などを行います。

大学教員としての高い教育指導能力の獲得⑤のために、発達臨床心理学実験実習および臨床心理学実験実習が設けられています。ここでは、人間学群心理学類開講科目である心理統計実習ならびに心理学研究法のインストラクターを務め、科目担当教員の指導下で、学類学生に対する教育補助を行います。

大学院共通科目は、国際的な研究者として活躍する

ためのコミュニケーション能力の獲得や研究倫理観の涵養など、研究者としてのより豊かで高度な知識技能の獲得するための科目群として位置づけています。

以上の教育課程により、学際性と国際性を備えた心理学を専門とする高い水準の研究能力、心理臨床実践能力、心理学の教育能力を備えた「科学者―実践者」の育成を目指しています。



達成度評価

■ヒューマン・ケアリングの理念に基づく社会貢献性の高い成果を発信する能力…ヒューマン・ケア科学基礎論Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲおよびヒューマン・ケア科学方法論Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲの単位確認

■心理学の専門領域における研究者として、独創的で有意義な研究課題を見出し、課題解決に貢献する高い研究能力と高い研究倫理観…発達臨床心理学演習Ⅰ・Ⅱ、臨床心理学演習Ⅰ・Ⅱの単位確認並びに研究倫理審査申請書類と審査結果の確認

■臨床心理士など心理臨床的支援を行う高度専門職業人としての実践能力と高い職業倫理観…発達臨床心理学演習Ⅰ・Ⅱおよび臨床心理学演習Ⅰ・Ⅱにおける単位確認と相談室での担当ケースのスーパービジョン

■自身の研究内容を他の研究領域の者にも適切に説明できるプレゼンテーション能力ならびに適切な質疑応答

ができるコミュニケーション能力…博士論文構想発表会、中間評価会、予備審査、本審査それぞれにおけるプレゼンテーションと口頭試問

■心理学専門の大学教員としての高い教育能力…発達臨床心理学実験実習および臨床心理学実験実習の単位確認

学位授与の体制など

■博士1・2年次においては、3月ごとに学修指導を実施し、研究の進捗状況や今後実施すべき内容等に関して、学生が指導教員及び副指導教員との間で十分な意思疎通の下で共有しています。

■各年度末にその年の研究活動報告を提出させ、研究業績をチェックしています。

■参考論文リストを作成し、博士論文の提出条件となる学術雑誌名・投稿カテゴリーを学生に明示します。

博士(ヒューマン・ケア科学)

Doctor of Philosophy in Human Care Science

学位授与の方針

学位を授与するにあたり以下の方針を掲げています。

学際的・複合的な学問領域であるヒューマン・ケア科学において独創的で優れた研究課題を設定し、博士の学位に相応しい成果があり、科学的・系統的に論述し総括する能力および社会貢献性の高い学術論文を公表する能力を有すると認められること。さらに、有資格者(医師、歯科医師、薬剤師、保健師、助産師、看護師、理学療法士、作業療法士、栄養士、社会福祉士、精神保健福祉士、歯科衛生士、保育士、臨床心理士、教師等)の場合には、高度な専門的技術力を練磨し、ケアリング社会の実現に資する実践能力を有すると認められること。

大学院学則に規定する課程の目的を充足した上で、次の能力を有することがヒューマン・ケア科学専攻内規に示した審査会において認定されること。

- ヒューマン・ケアの理念に基づく社会貢献性の高い成果を発信する明確な意思やその能力及び教育能力
- 国際社会で人間支援の能力を発揮するためのコミュニケーション能力
- 教育学・心理学・医学・保健学・福祉学・看護学等の各専門領域における課題への理解及び課題解決に向けて関係学術領域と連携を図ることができる能力及びその教育能力
- 研究者または高度専門職業人としての高い倫理観
- 研究チームや組織の一員としての役割を明確に認識し、他職種や他研究領域の研究者と協働のできる能力及び後進への指導に対する高い関心
- 自身の研究内容を他の研究領域の者にも適切に説明できるプレゼンテーション能力及び教育能力、また適切な質疑応答ができるコミュニケーション能力

教育課程編成・実施の方針

ヒューマン・ケア科学を構成する複数の関連する学問領域を理解し、人間支援の前提となる全人的理解、援助方法の策定と介入方法および社会制度・政策論をクリティークするまでの一連の研究過程について、問題解決に必要な高度で専門的な理論と実践方法を修得し、創造性及び自己推進力を涵養するための教育課程を編成しています。

■必修科目として共通科目にヒューマン・ケア科学基礎論、研究方法がそれぞれ3単位設定され、関係研究領域の概念や課題、そしてその課題解決のための専門領域のアプローチ方法について、基本的な知識を習得し、ヒューマン・ケア科学としての基礎を身につけます。またこれにより学際的な研究交流の実施ができるコミュニケーション能力を獲得します。

■専門科目として6単位以上、主に指導教員の研究領域の科目を学習し、高度な研究が実施できる研究能力を獲得します。

専門科目は具体的には各分野において、必要な知識の習得やコミュニケーション能力、教育能力の獲得を目指した演習と、高度な研究能力や教育能力を獲得し、学位論文を作成する能力を獲得できることを目指した特別研究から構成されています。

また大学院共通科目については、必修とはしていませんが、研究者、大学教員、高度専門職業人としての倫理観や基礎的な素養を習得するために、その履修を強く勧めています。

達成度評価

■標準履修年次である3年間の修了(学位記授与)を念頭に指導教員のみならず複数の副指導教員での教育体制を確保し、丁寧で質の高い指導を計画的に行います。

特に博士(ヒューマン・ケア科学)では、ヒューマン・ケアの理念に基づく社会貢献性の高い成果を発信する明確な意思やその能力及び教育能力や、教育学・心理学・医学・保健学・福祉学・看護学等の各専門領域における課題への理解及び課題解決に向けて関係学術領域と連携を図ることができる能力及びその教育能力等の達成状況を確認します。

また、具体的な指導として履修科目やその単位数、学位論文の進捗状況、障害となっている事項、投稿論文の進捗状況等を確認し、その達成状況を教員と学生が共有するとともにこれらに対して教員が適切な指導を実施しています。またこれらを通じてコミュニケーション能力、研究倫理観、学際的視点の深度等も確認します。

■3月ごとに学修指導を実施し、研究の進捗状況や今後実施すべき内容等に関して、学生が指導教員及び副指導教員との間で十分な意思疎通の下で共有できます。

学位授与の体制など

■標準履修年次である3年間での修了(学位授与)をめざし、標準学修課程フローチャートにより計画的・継続的に複数の教員から指導を受ける体制を整えています。表1に示しましたが、学生及び教員に専攻内規集として配布し周知しています。指導経過については3月ごとに学修指導記録として提出され、専攻教育会議において各学生の研究進捗状況が確認されています。

■学位論文審査会までに、中間審査会と予備審査会が

あります。

■中間審査会において学位論文のテーマと全体計画及び研究内容に関して理論の一貫性等が確認されます。またその際に他の研究分野の教員から異なる視点からの指摘を受けたり、指導がされます。また学生間での討論ができるように、学生からのコメントが評価を受ける側の学生に文章で渡され、今後の研究の参考とされます。

■予備審査会にて、学位論文として質の審査や学術論文を投稿しているかが確認されます。審査会には指導教員と異なる研究分野の副査も参加します。

■学位論文審査会では予備審査会の主査・副査に加えて、他専攻から副査を追加し、より学際的な視点からの審査が実施されます。

■学位論文審査のより高い公正性と学際的視点を重視する観点から、可能な限り指導教員を主査としない工夫をしています。

学年	スケジュール
1年次	学位論文テーマの決定
	指導教員・副指導教員の決定
	共通科目履修による学際性の涵養
	TA等による指導力・教育力の修得
	3月毎の学修指導と指導記録提出
2年次	中間審査会への参加
	研究内容の審査
	発表能力の修得
	他研究への吟味的評価
	学会発表の実施
	学会誌への投稿準備
	3月毎の学修指導と指導記録提出
3年次	学会誌への投稿
	予備論文の提出と予備審査
	学位論文の提出と学位論文審査
	成果発表会にて学位論文のプレゼンテーション

表1 ヒューマン・ケア科学専攻の標準学修課程

博士(体育科学)

Doctor of Philosophy in Health and Sport Sciences

学位授与の方針

博士(体育科学)の学位は、授与するにあたり以下の方針を掲げています。

学際的・複合的な学問領域であるヒューマン・ケア科学において、心身の健康と運動・スポーツ・身体活動に関わる独創的で優れたテーマを設定し、博士の学位に相応しい成果が得られ、論理的な構成に基づく学位論文の体裁にまとめられていること。それらの内容が、健康の保持増進のための社会的支援策の実践に寄与し、健康社会の実現に資すると認められること。また、有資格者(保健師、看護師、理学療法士、作業療法士、学校教諭、管理栄養士等)の場合には、その専門技術と体育科学の専門素養を兼ね備えた、より社会貢献性の高い技術力を有すると認められること。

大学院学則に規定する課程の目的を充足した上で、次の能力を有することがヒューマン・ケア科学専攻内規に示した審査会において認定されること。

- ヒューマン・ケアの理念に基づく社会貢献性の高い成果を発信する明確な意思やその能力及び教育能力
- 心身の健康の保持増進と運動・スポーツ・身体活動に関わる独創的で有意義な研究課題を見出し、課題解決に貢献する高い研究能力及びその教育能力
- 国際社会で人間支援の能力を発揮するためのコミュニケーション能力
- 研究チームや組織の一員としての役割を明確に認識し、他職種や他研究領域の研究者と協働できる能力
- 自身の研究内容を他の研究領域の者にも適切に説明できるプレゼンテーション能力及び教育能力、また適切な質疑応答ができるコミュニケーション能力

教育課程編成・実施の方針

必修科目としてヒューマン・ケア科学基礎論、ヒューマン・ケア科学方法論がそれぞれ3単位設定され、子どもから高齢者・障害のある人まであらゆる人々の健康支援に関わる学際領域の基本素養を習得します。これにより、健康課題解決のアプローチ方法について基本的な知識を習得し、また学際的な研究交流の実施ができるコミュニケーション能力を獲得します。

この基盤の上に、専門科目として6単位以上が設定され、心身の健康の保持増進と運動・スポーツ・身体活動およびその心理社会環境要因に関する専門素養を養い、これらに関わる高度な研究能力や教育能力を獲得します。具体的には、演習により、さまざまな心身の健康課題と運動・スポーツ・身体活動についての実証検討、および問題解決のための学校・地域・職域での社会的支援策の考案に関する専門知識を習得し、またこれらに関する教育能力を獲得します。また特別研究により、一連の研究過程に関わる理論と方法を習得し、学位論文を作成できる高度な研究能力を獲得します。

さらに大学院共通科目については、必修とはしていませんが、研究者、大学教員、高度専門職業人としての倫理観や基礎的な素養を習得するために、その履修を強く勧めています。

達成度評価

■標準履修年次である3年間の修了(学位授与)を念頭に指導教員のみならず複数の副指導教員での教育体制を確保し、丁寧で質の高い指導を計画的に行います。

■ヒューマン・ケアの理念に基づく社会貢献性の高い成果を発信する明確な意思、健康課題の解決に向けて関係学術領域と連携を図ることができるコミュニケーション能力、心身健康を保持増進する運動・スポーツ・身体活動要因およびそれらの社会的支援策に関する研究能力と教育能力の達成状況を確認します。

■履修科目やその単位数、学位論文の進捗状況、障害となっている事項、投稿論文の進捗状況等を確認し、その達成状況を教員と学生が共有するとともに、これらに対して教員が適切な指導を行います。またこれらを通じて、コミュニケーション能力、研究倫理観、学際的視点の深度等も確認します。

■3月ごとに学修指導を実施し、研究の進捗状況や今後実施すべき内容等に関して、学生が指導教員及び副指導教員との間で十分な意思疎通の下で共有できます。

学位授与の体制など

■標準履修年次である3年間での修了(学位授与)をめざし、標準学修課程フローチャートにより計画的・継続的に複数の教員から指導を受ける体制を整えています。表1に示しましたが、学生及び教員に専攻内規集として配布し周知しています。指導経過については3月ごとに学修指導記録として提出され、専攻教育会議において各学生の研究進捗状況が確認されています。

■学位論文審査会までに、中間審査会と予備審査会があります。

■中間審査会において、学位論文のテーマと全体計画及び研究内容に関する論理一貫性等が確認されます。その際に、他の研究分野の教員から異なる視点での指摘や指導がなされます。また学生間での討論ができるように、学生からのコメントが評価を受ける側の学生に文章で渡され、今後の研究の参考とされます。

■予備審査会において、学位論文として質の審査や学術論文の投稿についての確認がなされます。審査会には他の研究分野の副査も参加します。

■学位論文審査会では予備審査会の主査・副査に加えて、他専攻から副査を追加し、さらに学際的な視点からの審査が実施されます。

■学位論文審査の公正性を確保するために、可能な限り指導教員を主査としない工夫をしています。

学年	スケジュール
1年次	学位論文テーマの決定
	指導教員・副指導教員の決定
	TA等による指導力・教育力の修得
	共通科目履修による学際性の涵養
	3月毎の学修指導と指導記録提出
2年次	中間審査
	研究内容の審査
	発表能力の修得
	他研究への吟味的評価
	学会発表の実施
	学会誌への投稿準備
	3月毎の学修指導と指導記録提出
3年次	学会誌への投稿
	予備論文の提出と予備審査
	学位論文の提出と学位論文審査
	成果発表会にて学位論文のプレゼンテーション

表1 ヒューマン・ケア科学専攻の標準学修課程

博士(公衆衛生学)

Doctor of Philosophy in Public Health

学位授与の方針

学位を授与するにあたり以下の方針を掲げています。

学際的・複合的な学問領域であるヒューマン・ケア科学において、公衆衛生に関わる独創的で優れたテーマを設定し、博士の学位に相応しい成果が得られ、論理的な構成に基づく学位論文の体裁にまとめられていること。それらの内容が、公衆衛生の実践に寄与すると認められること。

大学院学則第3条の2第2項に規定する課程の目的を充足した上で、次の能力を有することがヒューマン・ケア科学専攻内規に示した審査会において認定されること。

- ヒューマン・ケアの理念に基づく社会貢献性の高い成果を発信する明確な意思やその能力及び教育能力
- 公衆衛生に関わる独創的で有意義な研究課題を見出し、課題解決に貢献する高い研究能力及びその教育能力
- 国際社会で人間支援の能力を発揮するためのコミュニケーション能力
- 研究チームや組織の一員としての役割を明確に認識し、他職種や他研究領域の研究者と協働できる能力
- 自身の研究内容を他の研究領域の者にも適切に説明できるプレゼンテーション能力及び教育能力、また適切な質疑応答ができるコミュニケーション能力

教育課程編成・実施の方針

必修科目としてヒューマン・ケア科学基礎論、方法論それぞれ3単位が設定され、公衆衛生に関わる統計学、環境保健学、疫学、社会行動科学、保健医療管理学に関連する専門知識、および健康の決定要因に関する体育学、心理学、教育学等の学際的知識を修得します。これにより、公衆衛生のアプローチに関する基本的知識を習得し、また学際的な研究交流が実施できるコミュニケーション能力を獲得します。

この基盤の上に専門科目が6単位以上設定され、主に指導教員の演習および特別研究などにより、研究領域に関する専門素養を養い、公衆衛生実践策の考案能力や一連の研究過程に関わる高度な理論と方法を修得するための教育課程を編成しています。

さらに大学院共通科目については、必修とはしていませんが、研究者、大学教員、高度専門職業人としての倫理観や基礎的な素養を習得するためにその履修を強く勧めています。

達成度評価

■標準履修年次である3年間の修了(学位記授与)を念頭に指導教員のみならず複数の副指導教員での教育体制を確保し、丁寧で質の高い指導を計画的に行います。

■ヒューマン・ケアの理念に基づく社会貢献性の高い成果を発信する明確な意思、健康課題の解決に向けて関係学術領域と連携を図ることができるコミュニケーション能力、公衆衛生に関する研究能力と教育能力の達成状況を確認します。

■履修科目やその単位数、学位論文の進捗状況、障害となっている事項、投稿論文の進捗状況等を確認し、その達成状況を教員と学生が共有するとともに、これらに対して教員が適切な指導を行います。またこれらを通じて、コミュニケーション能力、研究倫理観、学際的視点の深度等も確認します。

■3月ごとの学修指導記録を実施し、研究の進捗状況や今後実施すべき内容等に関して、学生が指導教員及び副指導教員との間で十分な意思疎通の下で共有できます。

学位授与の体制など

■標準履修年次である3年間の修了(学位記授与)をめざし、標準学修課程フローチャートにより計画的・継続的に複数の教員から指導を受ける体制を整えています。表1に示しましたが、学生及び教員に専攻内規集として配布し周知しています。指導経過については3月ごとに学修指導記録として提出され、専攻教育会議において各学生の研究進捗状況が確認されています。

■学位論文審査会までに、中間審査会と予備審査会があります。

■中間審査会において、学位論文のテーマと全体計画

及び研究内容に関する論理一貫性等が確認されます。その際に、他の研究分野の教員から異なる視点での指摘や指導がなされます。また学生間での討論ができるように、学生からのコメントが評価を受ける側の学生に文章で渡され、今後の研究の参考とされます。

■予備審査会において、学位論文として質の審査や学術論文の投稿についての確認がなされます。審査会には他の研究分野の副査も参加します。

■学位論文審査会では予備審査会の主査・副査に加えて、他専攻から副査を追加し、さらに学際的な視点からの審査が実施されます。

■学位論文審査の公正性を確保するために、可能な限り指導教員を主査としない工夫をしています。

学年	スケジュール
1年次	学位論文テーマの決定
	指導教員・副指導教員の決定
	共通科目履修による学際性の涵養 TA等による指導力・教育力の修得
	3月毎の学修指導と指導記録提出
2年次	中間審査
	研究内容の審査
	発表能力の修得 他研究への吟味的評価
	学会発表の実施・学会誌への投稿 3月毎の学修指導と指導記録提出
3年次	学会誌への投稿
	予備論文の提出と予備審査 学位論文の提出と学位論文審査
	成果発表会にて学位論文のプレゼンテーション

表1 ヒューマン・ケア科学専攻の標準学修課程